

JTTRI-AIRO 物流シンポジウム  
『インドネシアにおける効率的な物流の構築を目指して  
～海 ASEAN における物流の改善～（パート 2）』

宿利会長開会挨拶

Selamat siang. Nama saya SHUKURI.

皆様、こんにちは。私は、運輸総合研究所（JTTRI）の会長をしております宿利正史です。

本日は、インドネシア共和国運輸省との共催で、物流シンポジウム『インドネシアにおける効率的な物流の構築を目指して～海 ASEAN における物流の改善～（パート 2）』を開催できますことを心から嬉しく思います。

そもそも、今日のシンポジウムは、インドネシアの首都ジャカルタの会場とオンラインのハイブリッド形式で開催する予定でしたが、昨今のジャカルタの状況を考慮いたしまして、すべての参加者の皆さまに安心してご参加いただける環境を整えるために、急遽オンライン形式の開催に変更させていただきましたが、急な変更にもかかわらず、皆さまのご理解とご協力をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

もっとも、ジャカルタ市内の現状は私が見る限り大変平穏な状況になっておりますので、もしかしたらリアルで開催できたのかもしれませんが、あくまで安全サイドに立って開催したと

いうことでございます。

さて、本日のシンポジウムは、多くのインドネシア政府の方々、また経済界の方々、学会の方々、そして日本の政府、経済界、学界の方々にご協力をいただいて開催する運びになりました。

まず、ご多忙の中、ビデオメッセージをお届けいただきました

- ・ インドネシア共和国インフラ地域開発調整大臣

Agus Harimurti Yudhoyono（アグス・ハリムルティ・ユド  
ヨノ） 様

来賓ご挨拶をいただきます、

- ・ インドネシア共和国運輸大臣補佐官

Yufridon Gandoz Situmeang（ユフリドン・ガンドズ・シト  
ウメアン） 様

- ・ 駐インドネシア日本国特命全権大使

正木 靖（まさき やすし） 様

ご多忙の中、ビデオメッセージをお届けいただきました

- ・ インドネシア商工会議所副会頭

Carmelita Hartoto（カルメリータ・ハルトト） 様

そして、ご後援を賜りました

- ・ ジャカルタ・ジャパン・クラブ理事長

笠井 信司（かさい しんじ） 様

に心から感謝申し上げます。

また、基調講演をしていただきます

- ・ インドネシア共和国経済調整府次官補代行

Ismariny（イスマリニー） 様

- ・ インドネシア共和国運輸省海運総局 海上交通・海運局長

Budi Mantoro（ブディ・マントロ） 様

- ・ 日本国国土交通省国土交通審議官

寺田 吉道（てらだ よしみち） 様

に厚く御礼申し上げます。

さらに、パネルディスカッションにご参加いただきます

- ・ 都市地方政府研究所 所長

Bambang Susantono（バンバン・スサントノ） 様

- ・ インドネシア大学 教授

Sutanto Soehodho（スタント・スホド） 様

- ・ インドネシア商工会議所 物流常任委員会委員長

Andrianto Soedjarwo（アンドリアント・スジャルウォ） 様

- ・ スラバヤ工科大学 教授

I Nyoman Pujawan（イ・ニョマン・プジャワン） 様

- ・ 東京大学大学院 准教授

柴崎 隆一（しばさき りゅういち） 様

に厚く御礼申し上げます。

また、オンラインの開催ということに変更いたしましたけれども、本日このジャカルタの会場に、インドネシア共和国インフラ・地域開発調整府の Odo R. M Manuhutu（オド・R. M・マヌフトゥ）次官に、お忙しい中わざわざお越しいただいております。Odo（オド）次官には、本日のシンポジウムの開催にあたりまして、格別のご協力とご支援を賜っておりますことに対し、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

また、その他にもインドネシア政府の高官の方々もお越しいただいておりますし、日本の関係者もお見えになっております。誠にありがとうございます。

さて、ここで少しこのシンポジウムの趣旨に関わる話を申し上げますと思いますが、私が改めて申し上げるまでもなく、インドネシアは、東西に約 5,100km という非常に長い連なりを持った国土であり、しかも大小 17,000 以上の島々からなるいわゆる群島国家であります。日本も同じく島国でありまして、国土の規模、あるいは島の数はインドネシアには及びませんが、しかし実はいろいろな共通の課題を抱えた国同士であるということとは紛れもない事実であります。このような日本にとりまして、インドネシアは日本から東南アジア・南アジア・中東・アフリカ・そして欧州諸国を結ぶ海上輸送の要衝に位置しており、同時に、貿易や投資などの経済面において大変重要な関りを持っておりますし、人的交流・観光の面においても大変密接な関係にあ

ります。

また、日本とインドネシアは基本的価値や戦略的利益を共有しておりまして、日本が提唱する「自由で開かれたインド太平洋」の実現、さらに、インドネシアのリーダーシップにより ASEAN において採択されました「ASEAN インド太平洋アウトルック」の実現という観点からも、極めて重要な「包括的・戦略的パートナー」であります。

交通分野における日本とインドネシアの協力関係は、既に大変長い歴史と実績を有しており、今日では、ジャカルタ都市高速鉄道、いわゆるジャカルタ MRT の南北線・東西線の建設・運営・維持管理、またパティンバン港の建設・運営、さらにブカシ自動車認証試験場の設計・建設・保守、インドネシアの海上保安能力の向上に関する協力などが、技術移転を通じた人材育成を含めて着実に進められています。

今からかれこれ 40 年も前のことになりますが、私が 1984 年から 87 年まで在インドネシア日本国大使館で運輸・観光を担当する一等書記官として勤務しておりました頃も、ジャボタベック圏の鉄道近代化事業、スマラン港の整備事業、バリ国際空港の拡張事業など、大変多くの重要な交通インフラの整備がインドネシアと日本の緊密な協力関係のもとで精力的に実施されていたことを、今でも鮮明に、かつ、大変懐かしく思い出します。

一方、近年の COVID-19 によるパンデミックや、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエル・パレスチナ紛争の激化と紅海におけるフーシ派による船舶への攻撃、渇水によるパナマ運河の通航制限などは、世界の経済・社会に対してはもとより、グローバルサプライチェーンや国際物流に対しても甚大な影響を及ぼしております。

日本とインドネシアとの関係は、このようなグローバルな視点で捉えていく必要があり、効率的で、かつ、強靱で安定的な物流の実現は、両国の経済・社会の発展と経済安全保障の観点から喫緊の課題であると、私は考えております。

また、物流分野においても、「脱炭素」や「持続可能性」といった世界共通の地球規模の課題に対処していかなければなりません。

本日のシンポジウムでは、基調講演において、インドネシアと日本それぞれの物流の課題と政府の取組についてご紹介いただきます。現在、インドネシアにおいては、物流競争力強化に向けた大統領令の策定に取り組んでおられると承知しております。

基調講演の後に、JTTRI のアセアン・インド地域事務所(AIRO)の富田及び高島両研究員から、シンクタンクの立場として、

① 1 つは、インドネシアの経済社会状況を概括した上で、イン

ドネシアの政府関係者、物流事業者、学識経験者へのヒアリングなどから明らかになったインドネシアの物流効率化に向けた課題を分析し、

- ② 次に、JTTRI がタイ及びフィリピンの物流改善について研究調査した結果、また ASEAN におけるコールドチェーンの普及に向けた研究調査、これらの既往の研究調査結果から、インドネシアにとっても有益と考えられるものをご紹介します。
- ③ そして最後に、インドネシアの物流改善のために今後取り組んでいくべき課題のうち、特に重要と考えられる港湾へのアクセスの改善、モーダルシフト、人材育成などの課題に対する対応策についての提案を、議論のたたき台として発表します。

その後のパネルディスカッションにおいて、学識経験者、物流事業者の参画を得て、インドネシアの物流改善に向けた課題や政策について、議論を深めていきたいと考えております。

本日のシンポジウムが、インドネシアと日本にとって、さらには、ASEAN と日本にとって、効率的で、かつ、強靱で安定的な物流の構築に向けた一助となることを、私は心から強く願っております。

同時に、私といたしましては、今後、本日のシンポジウムの議

論を踏まえて、いわば本日のシンポジウムをキックオフとして、今後、効率的で、かつ、強靱で安定的な物流の構築に向けて、インドネシアと日本の両国の間で、実務レベルで継続的に知見と情報の共有を行い、議論と検討を深めていくための取り組みを、枠組みを設けて進めてはどうか、と考えております。

本日ご出席いただいておりますインフラ・地域開発調整府のOdo（オド）次官をはじめ、インドネシア政府及び関係の皆様には是非前向きにご検討いただいて、そのような活動に速やかに移していきたいと考えておりますので、この場をお借りして強くお願い申し上げます。

最後になりますが、JTTRI は、COVID-19 のパンデミックの正に直前の 2020 年 2 月に、このジャカルタでシンポジウムを開催いたしました。その時は、インドネシア運輸省と共催で、「インドネシアにおける鉄道整備と沿線開発」というテーマを取り上げて国際セミナーを開催いたしました。今でもインドネシアにおいて重要な政策課題であると承知しておりますし、ASEAN の各国の皆様と議論してしましても共通の課題となっています。その後 COVID-19 の影響で 3 年間ほど具体的な取り組みが途絶えましたが、今回は、その時以来の 5 年半ぶりのシンポジウムとなります。

JTTRI 及び JTTRI-AIRO は、インドネシアの皆様との、地に足

のついで、継続的かつ重層的な連携と協働を通じて、インドネシアと日本の運輸分野・観光分野の発展を目指し、両国の絆が一層強くなるよう努力してまいりたいと考えております。今後ともインドネシアと日本両国の皆様のあたたかいご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます、ご挨拶といたします。

本日は、多くの皆様に、この会場とそしてオンラインでご参加いただいておりますことに、心から感謝申し上げます。Terima kasih banyak.